

令和7年度 第1回佐賀市男女共同参画審議会報告書

開催日時 令和7年5月27日(火) 10時00分から11時32分まで

開催場所 佐賀市役所 本庁舎4階 大会議室

会議の公開又は非公開の別 公開

出席委員 田口 香津子(会長)、福成 有美(副会長)、内海 恵美子、小城原 直、黒田 彩、古泉 志保、名和田 陽子、野田 久美、橋本 京介、長谷川 淳一、森島 孝

事務局出席者 星下政策推進部部長、木原政策推進部副部長、橋本男女共同参画課長 ほか

傍聴者 なし

議事概要

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 諮問
- 4 議題

(1)男女共同参画に関する市民意識調査及び中学2年生意識調査の報告について

【市民意識調査】

事務局：資料に沿って説明

委員：夫婦のキャリアに対する考え方で、妻に働いてもらいたいかどうか調査をしたときに、妻に働いてもらいたいという割合がかなり高い。一方で同じように夫が育児家事やりますかという、一気にそこが下がっている。お互いキャリアアップを目指したいと言いつつ、家庭内では実態としてはできていないのではないのか。

サンプル数が多くなく、本当に市民の方の意見が反映されているのか。

事務局：今回の回答数は848件、回収率は36.8%、回収率だけ言うと前回より伸びている。今回からWebフォームで入力してもらったというところで伸びたのではないのか。回答数についてはコストとの比較なども含めながら検討していきたい。

委員：男の子も女の子も同じ程度の炊事、掃除、洗濯など、生活していくために必要な技術を身につけるように育てた方がよいが91.1%となっているが、現実と違うと感じる。

事務局：「何とかの方が良い」と聞かれたら、それは「いいよね」と回答をしてしまいがちな質問とは思う。設問文もできるだけ実態に近いような数字が取れるようにということで検討はしたが、今後、工夫が必要だと考える。

委員：そもそも男性は学歴があって経済的に自立できていて、女性はちゃんと家事ができないという質問の前提自体が大人の性別役割分担意識が染みついていると思う。それを前提にしていること自体が問題なのではないか。また、「働く」という言葉自体も、家事労働も労働であるという前提がない。男女に関わらず専業主婦かやっているような家事労働は、もう労働ではないという前提となっている。次回のアンケートはそういう大人の前提を考え直した方がいいのではないのか。

委員：このアンケートに答えた方は自主的に答えているので、男女共同参画に意識のある方が多いのではないのか。モデルケースに近い方が答えているため、比率にも関係していると思う。

委員：今回のような意識調査は全国的に、どの市町でもやっているものなのか。この調査は、政策に繋げていくためのものであると思うが、実態と離れている状態で何をキャッチアップするのか。

女性、女性と言っているが、男性も大変だと率直に思う。稼げるようになれば、でも家でもやれというような感じで、男性も苦しい状態にあると思っている。

59 ページの平日の女性の3時間以上の家事労働時間というのが多く、男性の方が少ない。これが、女性活躍を止めたり、意識に繋がったりしているところではないかと思う。

事務局：意識調査については、各自治体大体、計画を策定する前の年に実施されている。今回、調査票を作成するときに、いくつかの市を参考にしながら新しい項目立てを検討した。

男性も大変であるという意見について、やはり男性のキャリアを優先したいというところがあると感じているが、そういうところも見ながら新しい計画づくりを進めていく必要があると考えている。

委員：ドメスティックバイオレンスの関係の 77 ページで、DV を受けて我慢した割合が多くなっているが、令和元年と選択肢が違っているのが影響しているのではないかと感じている。やはり母数の問題もあると思うので、この意識調査の結果だけではなく、市の相談窓口などの数値を拾い上げて、計画に反映してほしい。

委員：調査結果に乖離が出てしまうのは、質問の仕方が意識についてなので、どうしても「そう思う」になってしまいがちで、「本当にそうしていますか」という言い方であれば回答が違ってくるのではないと思う。

委員：調査の対象と回答数があまりにも少なく、自分で答えられないような環境の人たちがたくさんいるのではないかと感じた。この結果は、環境の良い、それなりの生活をしている人たちの回答ではないかと思った。

委員：調査をするとき、ハラスメントなどで注意しておかなければならないのは、アンケートを受け取った方が、このアンケートをチャンスだと思い、そこを頼ってしまうことがある。当然、アンケートを回収した側は何等かの行動を起こさないといけない。所管の相談窓口もあるので、そのあたりを気を付けていかないといけないと思う。

【中学 2 年生意識調査】

委員：中学 1 年のときに男女共同参画の授業を行っているが、アンケートを中学 2 年で取るのはなぜか。アンケートを取る前に、2 年生でもう一度授業をすることはできないのか。

事務局：中学 1 年生のときに、佐賀市の子ども向けの条例パンフレットを使って授業をしており、そのときの生徒の意識が、中学 2 年生になってどれだけ定着したのか、考えがそのときに比べて変わったのかを調べるために実施している。授業の時期はバラバラで、2 年生になってこの調査をする前に授業をお願いするのは難しい。今年度の教科書の改正により、中学 3 年生で男女共同参画の授業をすることになり、教科書に取り入れてあるのであれば、佐賀市が作っているパンフレットを使った授業ではなくて、副教材として使用してもらうことも検討している。

委員：中学 2 年生に調査することは面白いと感じている。家庭内での影響というものは、中学 2 年生にはあると思う。例えば、自分の家事の頻度などは家庭内のルールや両親を見て、そこに影響されることがある。一方で学校の先生の働き方、生き方というのが、まだまだ古い感じがしていて、それが子どもに影響を与えていると思っている。学校単位で、先生がどのぐらいの男女共同参画に対しての意識があるか、生徒だけに男女共同参画を受けさせるのではなく、先生側にも、本当の意味で理解をしてもらったり、家のことを子どもたちに話せたりするようになると、将来的には明るくなるのではないかと。

委員：これぐらいの世代だと、かなり男女平等というのは進んでいるのではないかと。会社の中で女性を昇進させようという取り組みがあり、それを見ていると逆に男の方が損しているのではないかと感じるところがある。5 年後、こういった調査をするときには、偏った言い方かもしれないが、女性にもっと頑張ってもらいたい意識調査もしつつ、男性が違和感を持っていないかという角度もあっていい。

委員：生理で学校を休んだことを我慢した理由のアンケートの文章を考えると、「休みましたか、休みませんでしたか」というところでもどまるのではなく、「我慢した理由は何か」という

ところまで聞かないと、ただの実態調査になってしまい、意識調査まで踏み込んで有益な事業計画や政策に反映できないと思っている。DVについても、「言い出せなかった」、「我慢した」、「我慢しなかった」というところで終わるのではなく、どうして我慢したか、あるいは我慢しなかった、何をクリアしたから行動に移せたのかというところまで引き出したい。

委員：自由意見が面白かった。学校の先生への不満というのがすごく多いと思い、着替えるときに男子は見えるところで着替えないといけないのがいや、男だからパンツが見えてもいいと言われたなど、その辺はかなり先生側の方の啓発もしていく必要があると思う。自由記述で言いたいことだと思うのでそこをしっかりと拾いあげてほしい。

委員：自由記述がすごく面白く、「国や県が大きく行動しないと何も変わらない」、「偏見を持ってはいけないという空気を出してほしい」など中学生の声を大人が拾わないといけないと思った。また、性別の影響はないと答えている人が多いのに、将来したい仕事を見ると男女で大きく異なっており、「男性、女性は違う生き物なのです」、「違う生き方をするのは」のようなことが当たり前すぎて、意識調査に上ってきていないのではないかと。

委員：学校の先生の教育の仕方に偏りがあり、いろいろ不平不満があるが、これは経営者も同じで、せっかく意識を持って高校や短大、大学を卒業して社会に出ても、経営者がものすごくジェンダー差別をする企業であり、その中でいろんな不平不満が出たり、離職の道を選ばざるを得ないというのは、実は経済界の大きな課題でもある。学校の先生しかり、経営者、管理者の方々もこの教材を使った教育をやっていただければと思った。

委員：「女じゃないと髪を長くしないよ」や「もっと話し方に気をつけなさい」など、このような意識がまだまだある。

委員：男女の差別を学校内で感じるというところで、体操服に着替えるときに男の先生や他の生徒から見えるところで着替えなければならないという意見があった。今は自由選択で制服を選べるようになっているが、そこに勇気がない子たちも確実にいる。その中で、選択肢があることを前提にした先生方の関わりや学校の仕組みを考えていく必要がある。1人1人苦しくないような状態をいかに作るかというところが、男女共同参画であると思っている。

男女共同参画的に職業選択やキャリア教育にも突っ込んでいくのもありではないか。ロールモデルは、どうしても自分の家庭や自分の半径1メートルになりがちになり、もっと視野を広げていく必要がある。例えば、共働きしている家庭が片働きの家に行ってみるなども大切であり、シングルマザーだからダメ、シングルファザーだからダメではなく、多様な経験ができるような政策があると、今後この意識調査にも繋がっていくのではないかと。

(2) 第5次佐賀市男女共同参画計画の策定について

事務局：資料に沿って説明

質疑無し

(3) その他

委員：自治会長の女性が増えてくれない。少しずつ増えてきているが、もっと増えていけばいいと思っている。

4 閉会